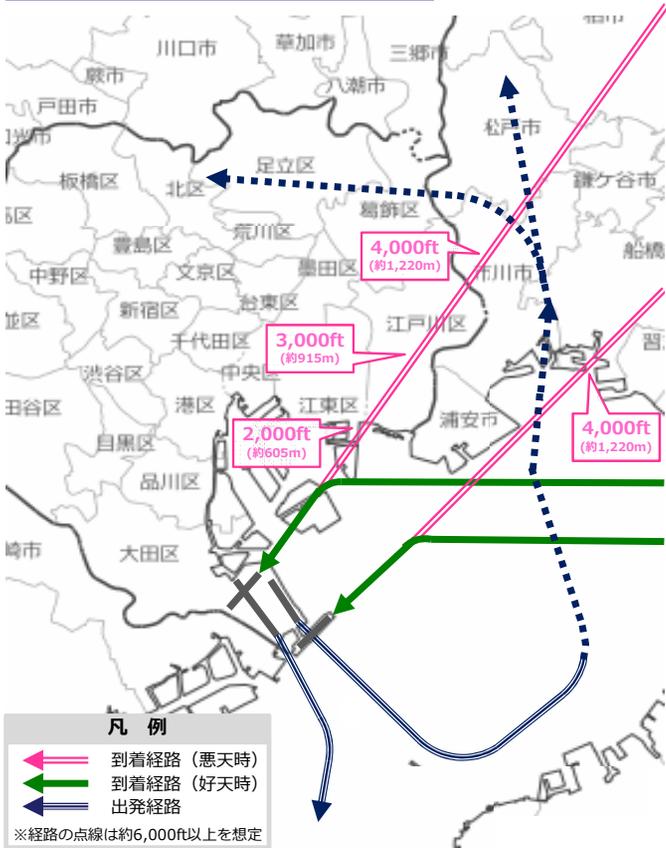


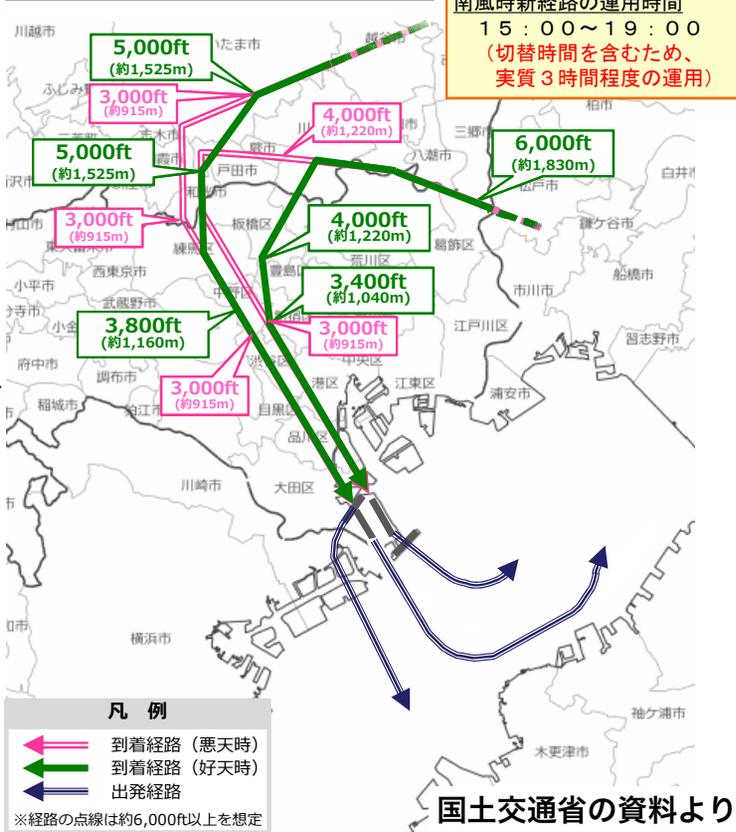
羽田新ルート 来年3月強行

騒音、落下物、大気汚染、墜落事故…不安は増すばかり

現行飛行経路
(離陸・着陸合計：80回/時)



新飛行経路
(離陸・着陸合計：90回/時)



南風運用の割合
約4割(年間平均)
南風時新経路の運用時間
15:00~19:00
(切替時間を含むため、
実質3時間程度の運用)

国土交通省の資料より

安倍政権は、2020年東京五輪に向けた羽田空港の国際線増便のため、来年3月29日から東京都心部を低空飛行する新ルートの運用を開始することを決定しました。小池都知事や関係自治体の代表者が容認しています。国土交通省は小型ジェット機による飛行検査を開始していますが、目撃した住民は「あの高さを実際は大型旅客機が次々と飛ぶかと思うと脅威」と住民不在の計画に抗議の声があがっています。

▼数多くの旅客機が23区を飛び交う計画

新ルートは南風時の午後3〜7時の間、1時間に最大44便が都心上空を通ります。それ以外の時間帯は千葉側などを飛行する現行ルートを利用します。豊島区で約1200機、渋谷区で約700機、品川区大井町付近では約340機の上空を飛行し地下鉄車内並みの騒音が懸念されます。

を高くするとしています。パイロットからは「経験したことのない急角度で危険」と驚きの声が上がっています。

▼歴史あるルールを無視した安倍政権

23区上空を飛び都心ルート計画は過去にもありましたが、これに住民や自治体の反対で1998年に中止された。現行の東京湾を中心としたルートになった経緯があります。特に着陸は海側しかありません。それは事故は離着陸時に頻発するので「海から入り海に出る」が原則となったのです。

飛行機からの落下物は国内の主要な7空港だけで年間477件にのぼります。人口密集地では大惨事になりかねません。大企業が潤う観光政策よりも住民の生命と財産の方が大事です。この間、安倍首相は「お国が決めたことは絶対であり、国民の意見には聞く耳を持たず」という、こうした時代錯誤の政治がまかり通るとも思っているのではないのでしょうか。

しかし、各区の市民団体の反発は根強いままで、品川、渋谷区議会は全会一致で計画の再考を求める決議や意見書を可決済みです。豊島区議会においても住民の憤りの声を受けた日本共産党を中心に反対意見が続いています。

国交省は、航空機の降下角度を通常の3度から3.5度に引き上げて通過高度

くらし何でも相談

お困りごとは、一人だけで、あるいは家族だけで悩まずに、何でもお気軽にご相談ください。各分野の専門家、労働組合、弁護士等と連携して問題解決に向けてサポートいたします。ご連絡お待ちしております。

お祭りの季節

9月は秋の祭礼が行われ、区内各地でおみこしを担ぐ姿が見られました。上池袋では子どもみこしに大人たちが加わり長い行列になっていました。伝統を守り、子どもたちに引き継ぐためにご尽力された皆様ありがとうございました。

